

# アメリカ中・西部の農業をみて

—中部の巻—

札幌研究農場 三浦 梧楼



中部には鶏を除いては畜産の専業経営というのは殆どなく、穀物生産プラス家畜経営の所謂複合経営で、穀物の附加価値を高める畜産経営というのが多い



穀物が高ければ直接販売して家畜をやめるといふケースも多いせいか、畜舎、建物は貧弱だが飼料貯蔵施設は立派



牧草は栽培作物の単純化もあってか短期更新が励行、草地にはルーサンかアカクロバの荳科が必ず入っている。最近の乾草は大型のロールペルが多くなってきた。



穀物の豊富なアメリカの肉牛生産も従来の濃厚飼料主体のプッシュ・プッシュ方式が減少、肉相場の変動に対応できる粗飼料併給方式に変わりつつある（フィドロット方式は金持ちの道楽仕事との声もきかれた）



穀物相場に最も左右される養豚。イリノイ、アイオワ、ウイスの3州で全米の約40%の豚を生産しているが、常に採算性の指標となる hog corn Ratio を頭に入れて増減につとめている。